

公益財団法人 沖縄県メモリアル整備協会

沖縄のお墓事情アンケート調査2020 結果ご報告書

2020年8月17日

Advertising agency



目次

1. アンケート実施概要	3
2. SDGs視点でみたお墓に関する調査結果	5
3. 考察	11

1. アンケート実施概要

件名	沖縄県民WEB調査
目的	沖縄県における「お墓」需要の状況と関心度の状況等を把握し、お墓の在り方や今後のお墓不足について考える基礎資料とする。
対象	20～69歳の男女 沖縄県居住者および沖縄県出身県外居住者のうち、自身が使用する又は、将来納骨されるお墓（納骨堂等含む施設）が沖縄県内にある者（予定含む）
実施方法	インターネットリサーチ
時期	2020年3月13日～15日
有効回答数	400サンプル

件名	識名地区参拝者調査
目的	沖縄県における「お墓」需要の状況と関心度の状況等を把握し、お墓の在り方や今後のお墓不足について考える基礎資料とする。
対象	識名地区参拝者の20歳以上の男女 沖縄県居住者のうち、自身が使用する又は、将来納骨されるお墓（納骨堂等含む施設）が沖縄県内にある者（予定含む）
実施方法	質問用紙を手渡し、郵送で回収
時期	2020年4月18日～5月6日（5/8回答締切）
有効回答数	346サンプル

2. SDGs視点でみたお墓に関する意識

公益財団法人沖縄県メモリアル整備協会では、2020年3月、沖縄県が策定した「沖縄県SDGs推進方針」に基づく「おきなわSDGsパートナー」に認定されました。

慢性的な墓不足の問題を抱える沖縄県において県民のお墓に関する意識やニーズを把握し、より良いお墓等のあり方の検証と、都市計画の妨げとなる無縁墓の要因を探ることを目的として、2020年3月から5月にかけて2つのアンケート調査を実施しました。

その調査結果を、SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」達成に向けた「お墓の持続可能性」の視点で読み込んだレポートを次頁以降にご報告いたします。

①-1 お墓を持続させていくための意識

<自分自身のお墓の継承について> に対する回答から

お墓を継承する層は、沖縄県民WEB調査で約4割、識名地区参拝者調査では約7割である。

沖縄県民WEB調査：「継承するつもりである」24.5%、「既に継承している」10.3%、「継承するつもりだが、修復もしくは移転させたい」5.0%

識名地区参拝者調査：「継承するつもりである」35.4%、「既に継承している」26.3%、「継承するつもりだが、修復したい」7.3%、

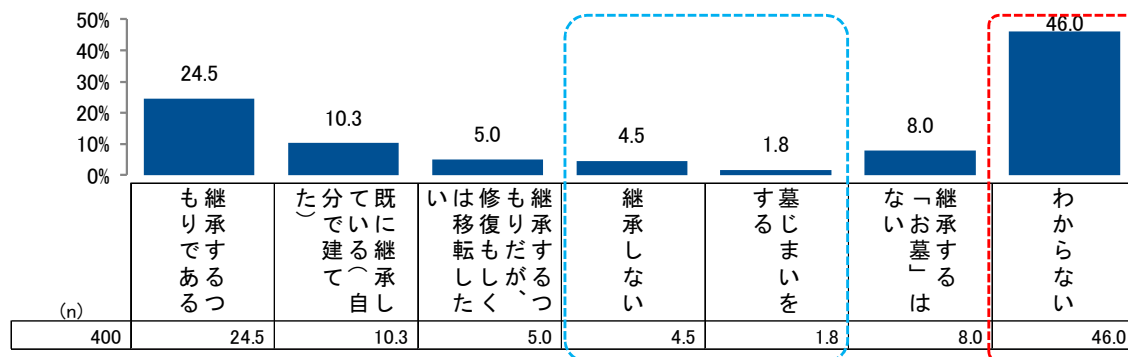
「継承するつもりだが他の場所に移転したい」6.6%

継承しない層は、両調査で1割以下。「わからない」とする層は、沖縄県民WEB調査で4割以上、識名地区参拝者調査で2割以上。

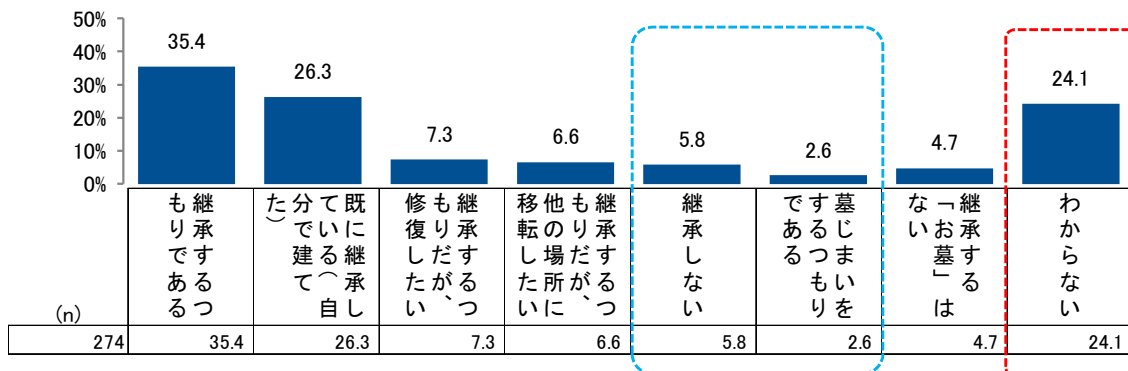
沖縄県民WEB調査：「継承しない」4.5%、「墓じまいをする」1.8%、「わからない」46.0%

識名地区参拝者調査：「継承しない」5.8%、「墓じまいをする」2.6%、「わからない」24.1%

【沖縄県民WEB調査】



【識名地区参拝者調査】



①-2 お墓を持続させていくための意識

<子どもへのお墓の継承について> に対する回答から

子どもへお墓を継承させる層は、沖縄県民WEB調査で3割、識名地区参拝者調査では6割以上である。

子どもへの継承については、自分自身の継承よりも割合がやや低い。（※①-1参照）

沖縄県民WEB調査：「継承させるつもりである」24.5%、「継承させるつもりだが、修復もしくは移転させたい」4.8%

識名地区参拝者調査：「継承させるつもりである」53.1%、「継承させるつもりだが、修復させたい」7.2%、

「継承させるつもりだが、他の場所に移転させたい」6.1%

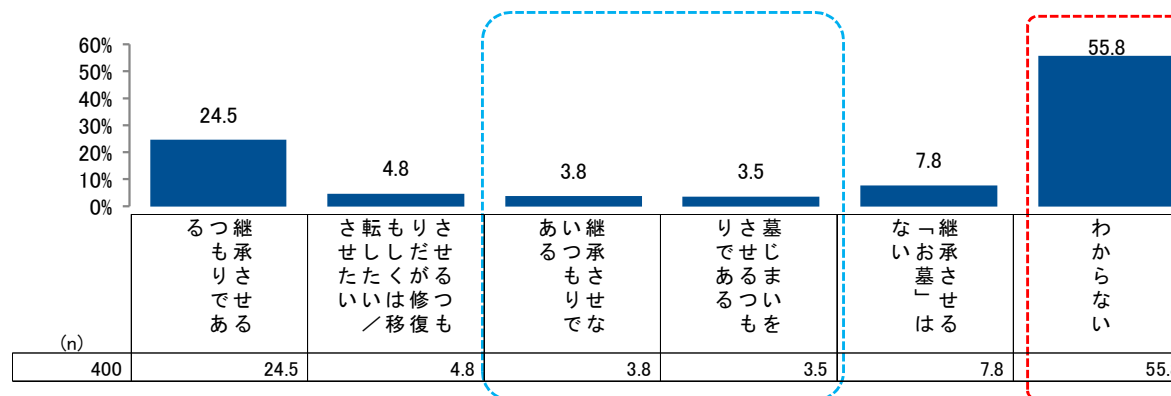
一方で、子どもへ継承しない層は、両調査で1割前後である。

沖縄県民WEB調査では、「わからない」とする層の割合が（55.8%）と高く、識名地区参拝者調査では（30.3%）である。

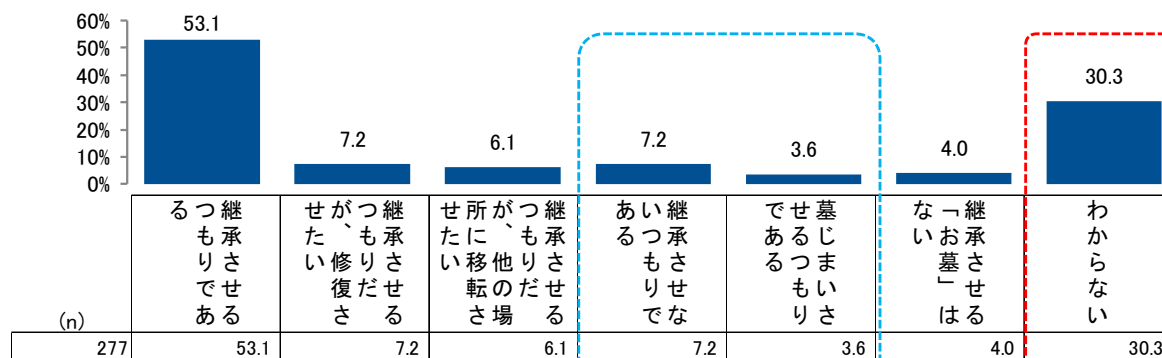
沖縄県民WEB調査：「継承させないつもりである」3.8%、「墓じまいをさせるつもりである」3.5%

識名地区参拝者調査：「継承させないつもりである」7.2%、「墓じまいをさせるつもりである」3.6%

【沖縄県民WEB調査】



【識名地区参拝者調査】



①-3 お墓を持続させていくための意識

＜お墓を建てる際に重視した（する）こと＞に対する回答から

代々続いている墓地を継承する層は、両調査で1割以上。

沖縄県民WEB調査：15.2% 識名地区参拝者調査：13.0%

一方で、永代供養や継承者がいなくても利用できるお墓に関心がある層も両調査で1割以上。

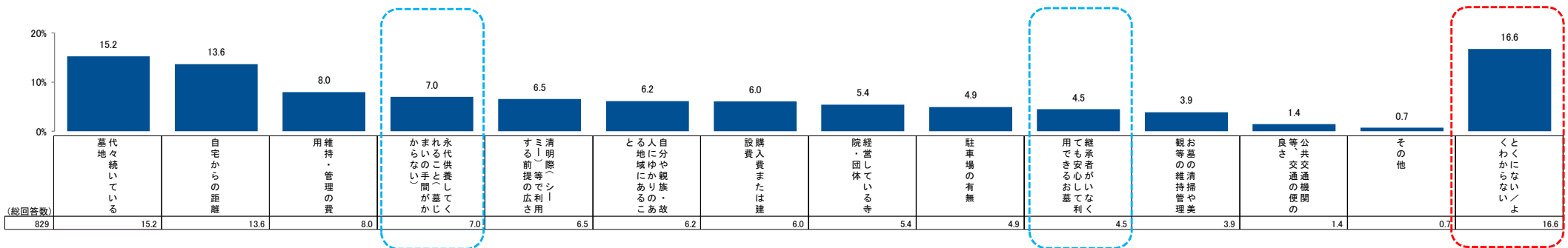
沖縄県民WEB調査では、「わからない」とする層の割合（16.6%）も高い。

沖縄県民WEB調査：「永代供養してくれること」7.0%、「継承者がいなくても安心して利用できるお墓」4.5%

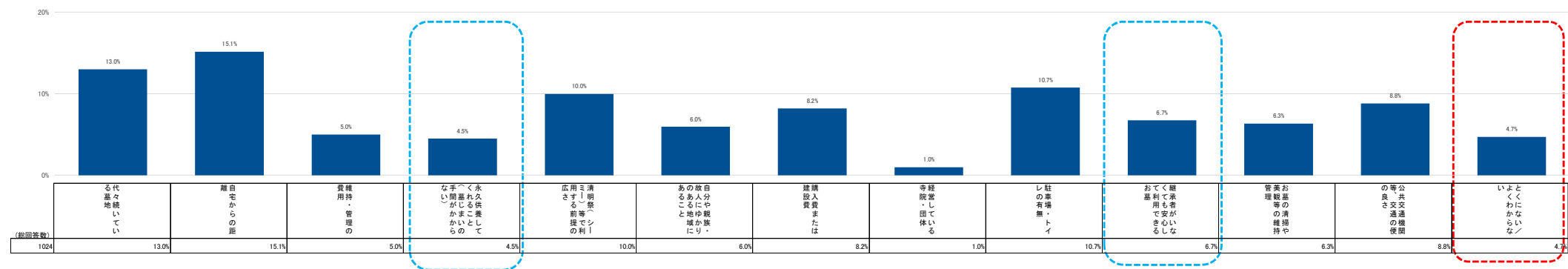
識名地区参拝者調査：「継承者がいなくても安心して利用できるお墓」6.7%、「永代供養してくれること」4.5%、

【沖縄県民WEB調査】

※質問は複数回答で、数値は総回答数に対する割合です。



【識名地区参拝者調査】



①-4 お墓を持続させていくための意識

<自身が購入するお墓のタイプ>に対する回答から

「沖縄の伝統的なお墓」とする層は、両調査とも約3割。

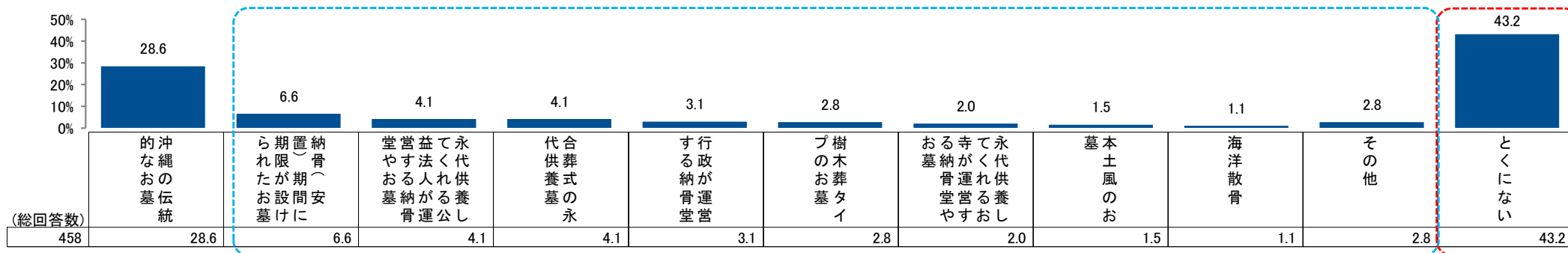
沖縄県民WEB調査：「沖縄の伝統的なお墓」28.6%

識名地区参拝者調査：「沖縄の伝統的なお墓」31.2%

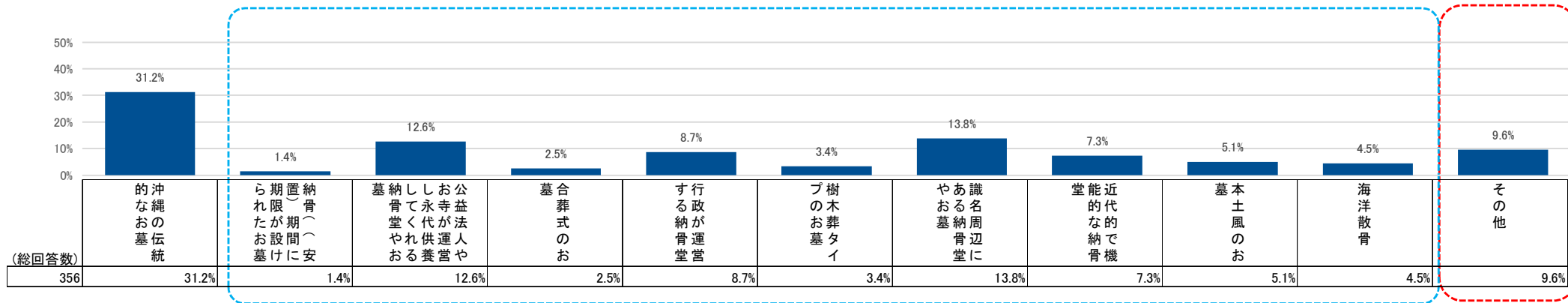
「沖縄の伝統的なお墓」以外を選択する層が沖縄県民WEB調査では3割、識名地区参拝者調査では約7割いる。
 沖縄県民WEB調査では「とくにない」とする層の割合（43.2%）が高い。

【沖縄県民WEB調査】

※質問は複数回答で、数値は総回答数に対する割合です。



【識名地区参拝者調査】



② -1 お墓の持続性への懸念

〈墓の所有者〉に対する回答から

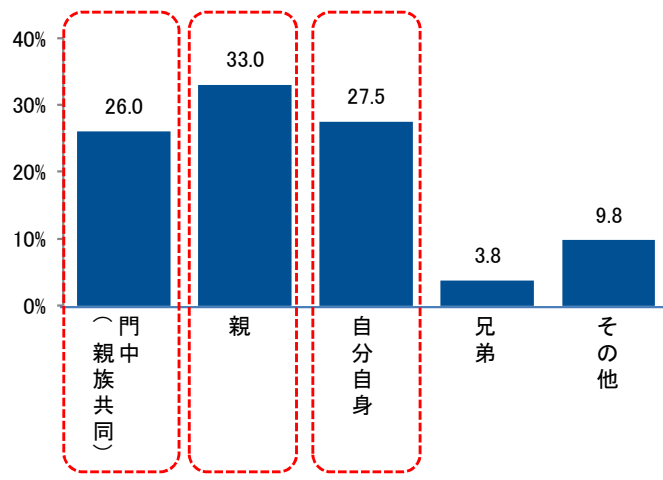
両調査とも、「自分自身」「親」「門中（親族共同）」の割合が比較的高い。

沖縄県民WEB調査：「自分自身」27.5%、「親」33.0%、「門中」26.0%

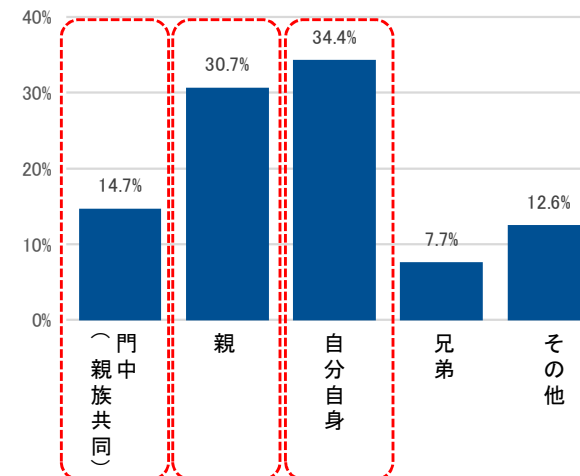
識名地区参拝者調査：「自分自身」34.4%、「親」30.7%、「門中」14.7%

個人墓地については、不動産登記と墓地の経営許可が必要であるが、特に「門中（親族共同）」は、相続後の登記がされていない可能性もある。

【沖縄県民WEB調査】



【識名地区参拝者調査】



② -2 お墓の持続性への懸念

<土地の所有者> に対する回答から

「親族（門中）の土地」の割合は沖縄県民WEB調査で2割以上、識名地区参拝者調査では約3割である。
沖縄県民WEB調査では、土地の所有者が「わからない」が2割以上と高い。

沖縄県民WEB調査：「親族（門中）の土地」21.0%、「わからない」24.0%

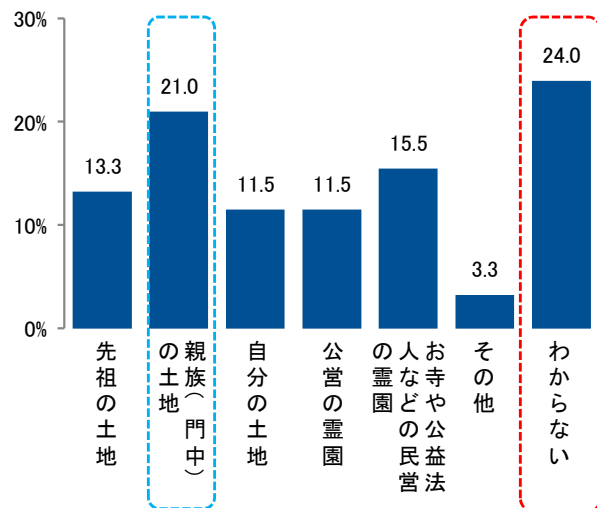
識名地区参拝者調査：「親族（門中）の土地」29.5%、「わからない」9.0%

個人墓地の割合は、沖縄県民WEB調査で4割以上、識名地区参拝者調査で5割以上。個人墓地については、不動産登記と墓地の経営許可が必要であるが、特に「先祖の土地」や「親族（門中）の土地」の場合も相続登記がなされていない可能性もある。

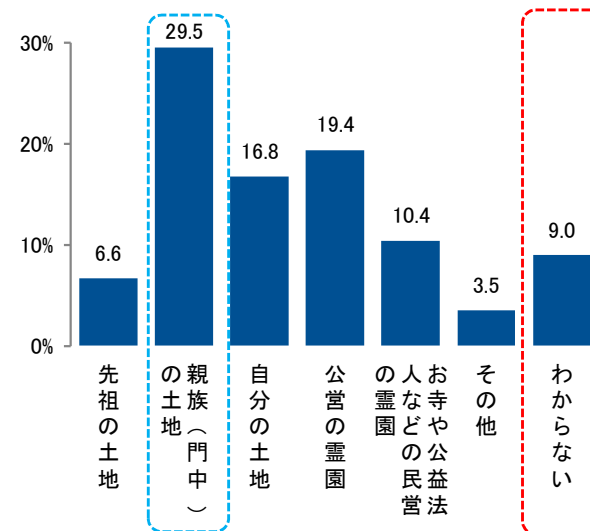
沖縄県民WEB調査：「自分の土地」11.5%、「親族（門中）の土地」21.0%、「先祖の土地」13.3% →個人墓合計 45.8%

識名地区参拝者調査：「自分の土地」16.8%、「親族（門中）の土地」29.5%、「先祖の土地」6.6% →個人墓合計 52.9%

【沖縄県民WEB調査】



【識名地区参拝者調査】



③-1 持続可能性の高いお墓の形態・システム

<アンケート結果についての考察>

お墓を建てる際について重視する点は、「代々続いている墓地」を重視する層の割合が比較的高いものの、永代供養や継承者不要のお墓を検討する層もみられる（※①-3参照）ほか、子どもへ継承する意向は、自分自身が継承する意向よりも低くなる（※①-1、①-2参照）傾向がみられた。

また、自身が購入する墓地のタイプ（※①-4参照）について「沖縄の伝統的なお墓」を選択する層の割合は高いものの約3割程度にとどまっており、それ以外を選択する層も多くみられ、そのニーズも多岐にわたっている。特に、沖縄県民WEB調査では、「とくにない」の割合も高く、今後、個人墓以外を選択する可能性も潜在していると考えられる。

子世代への継承を考えていない親世代も約1割いること、永代供養や継承者がいなくても安心して利用できるお墓について関心を持つ層もあり、少子化の進展に伴い、今後、改装や移転、墓じまいの需要が高まると考えられる。

特に識名地区においては、自身が購入するお墓について「沖縄の伝統的なお墓」が3割いる一方で、「沖縄の伝統的なお墓」以外を希望する層も約7割おり、永代供養や公営墓地等、お墓の在り方へのニーズは多様化していることがうかがえる。

<無縁化についての考察>

アンケート結果から、個人墓地が約4割以上（※②-2参照）、中でも「親族の土地（門中）の土地」や「先祖の土地」については、土地の所有者がはっきりしていないケースも相当数あると考えられ、今後、継承する際に問題が発生することも考えられる。

また、沖縄県民WEB調査においては、お墓の継承意思について「継承しない」層が1割に加え「わからない」が約4割も存在し将来の継承問題に対して不安を残す結果となっている。

継承する際の問題が潜在していることに加え、少子化の進展に伴い、継承されないまま無縁化するケースも増加することが懸念される。

（補足）

宜野湾市調査（H21年度調査）

- ・2032年には宜野湾市全体で174基が無縁化すると予測。
- ・無縁化出現率4.8%

那覇市調査（H14年度調査）

無縁墓と思われる墓が2.4%（408基）

豊見城市調査（平成24年度調査）

- ・「お墓についての心配」に対する回答
継承者がいないため将来無縁墓とならないか心配 4.8%
- ・「お墓の新築・改装に知事の許可が必要なことについて」に対する回答
知っている 37.5% 知らない 55.2%

③-2 持続可能性の高いお墓の形態・システム

<課題への対応策>

- ①個人墓地の「お墓」と「土地」の所有権登記を適切に行う。
- ②各市町村での既存の個人墓地に対し管理を行う。
- ③新設の墓地についての行政許認可の必要性を周知する。
- ④無縁化する前に改葬・墓じまいを啓蒙する。

以上が必要であるとともに、各市町村で地域的に公営墓地のみならず民営の霊園等の整備を促進することで、計画的なまちづくり、将来的な都市計画等に資する。

<SDGsの観点から>

- ・住み続けられるまちづくりを
- ・つくる責任使う責任
- ・陸の豊かさを守ろう

沖縄県メモリアル整備協会としては、上記の目標に対して、無縁化を防止するとともに、持続可能なお墓の在り方や管理方法を提唱し、持続的な発展に向けての環境整備を進める必要がある。